



6月号

令和2年5月26日

横浜市立 星川 小学校

校長 小西 俊光

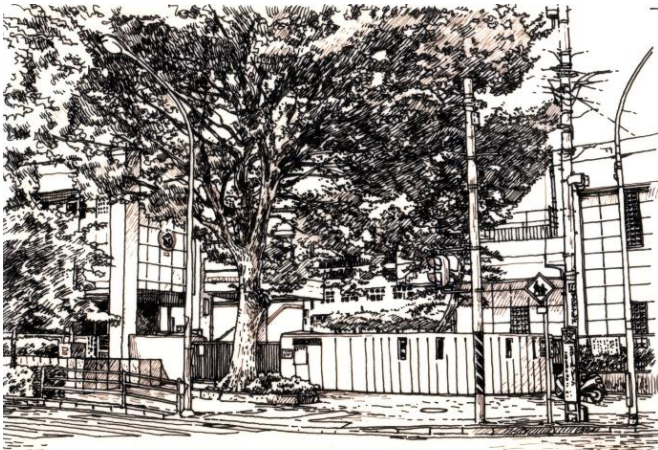
TEL.332-2101 FAX.331-5052

WEB ページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hoshikawa/>



けやきのように自分らしく、たくましく

学校長 小西 俊光



正門前（枇杷木としあき氏画）
～創立130周年記念式典冊子の表紙絵より～

正門前のけやきの葉が鮮やかな緑色になり、季節の移り変わりを感じさせてくれます。左の「正門前」の挿絵は、創立130周年記念式典の冊子の表紙絵として使われていたもので、枇杷木としあきさんが描いた絵だそうです。現在のけやきはこの頃から18年経過し、さらに大きくなっています。このけやきは幹の周囲が約2.5m（地面から1.2mの幹の太さ）、高さがおよそ13～14mあり、大地を握りしめるような太い根が何本も地表に顔を出し、歩行者用の道路にどっしりと立っています。正門側の幹には緑色のコケがびっしりと生えており、雨水が正門側の幹を伝って流れ落ちていることが分かります。樹皮が不規則な雲の形のようにめくり

あがり、風格を感じさせます。幹の太さから推定すると、樹齢は100～150年ぐらいありそうで、さながら星の子を毎朝見守る主のような存在です。昭和3年、現在の場所に校舎が建てられる前からこのけやきがあったのではないかと思います。

古代においては、けやきは「強い木」を意味する「槻（つき）」と呼ばれていたそうですが、16世紀頃から「櫟（けやき）」と表記されるようになったそうです。けやきの「けや」は、「際立って目立つ」「際立ってすぐれている」「美しい」という意味の「けやけし」に由来し、「けやけき木」の略と考えられています。学校の敷地の外に生えていますが、まさにその名のとおり、星川小学校にとってとても大切な樹木になっています。これからも星の子の元気な姿をこのけやきに見守ってほしいと思います。

さて、1都3県と北海道で緊急事態宣言が解除され、6月1日より学校が再開されることになりました。子どもたちも保護者の皆様もほっとされたことと思います。私たち教職員もやっと学校を再開することができ、とてもうれしく思っています。しかし、学校再開となったとしても、新型コロナウイルス感染が収まったわけではありません。これからはしばらくの間、新型コロナウイルス感染症とどのように付き合っていくか考えながら生活していかなければなりません。学校では、「子どもの心身の様子を見ること」「子どもの話に耳を傾け、子どもとのよりよい関係づくりをすること」「子どもたちが楽しみながら学習できる授業をすること」に力を尽くし、子どもたちの笑顔を取り戻したいと思います。また、引き続き「手洗い・うがいの励行とマスク着用」を促すとともに、校内の衛生管理にも努め、安心・安全な日常生活を子どもたちが取り戻すことができるようにしたいと考えています。

子どもたちが正門前のけやきのように、自分らしさを出しながら心も体もたくましくすくすく育ってほしいと思います。地域の皆様、保護者の皆様にもこれまで同様ご支援賜りますようお願いいたします。